

ハンドボール

No. 58

差替(No.53)前半点数

Japan
Handball
Association



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生

- 全国大会
- ジャパン大会
- 都道府県大会

- 男子
- 女子

試合番号 **武道館-女11**

年月日 **2022年7月30日(土)**
大会名 **全日本ハンドボール選手権大会**

公式記録用紙

A 四天王寺高等学校										B 県立玉野光南高等学校											
愛媛県					松山市					愛媛県武道館					1回戦						
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7mAD-DT	A	B							
	16	11	30	18																	
7m得点/総数		A			B			7mAD-DT		B		7m得点/総数									
		6/8			1 2 3			1 2 後 3		1/2											
		2311			1319																
No.	四天王寺					G	W	2'	D	DR	No.	玉野光南					G	W	2'	D	DR
4	坂井 優奈					3					1	塩崎 鈴々杏									
6	森田 凜					2					2 c	執行 雪音					7				
9	本田 心那										3	洲脇 萌笑									
12	山口 芽依										4	荒井 美咲									
14 c	田中 ゆら					1					5	岡部 衣莉香					4		2		
15	土井 藍莉					5					6	林 花鈴					2	1			
16	小寺 陽菜乃										7	武縄 泉吹									
18	平松 シマ					9		1			8	山地 乃暖実					5				
20	鷺見 絵夢					3					9	濱田 みやび									
21	青木 楓花										10	村瀬 咲音									
25	多田 安澄					5		1			11	稲田 乃愛									
26	春重 蒼衣										12	半田 咲來									
28	向井 愛遥					2					13	海野 心彩									
35	杉本 瑞樹																				
監督A	白鳥 貴子										監督A	平松 恭子									
役員B	市來 未央										役員B	細江 守男									
役員C	堀川 真奈										役員C	小畑 貴章									
A	白鳥 貴子					チーム役員A署名					平松 恭子					B					
特記事項																					

レフェリー	島村 祐輔	児玉 真太郎	島村 祐輔	児玉 真太郎
TD	吉井 雅一	定岡 孝明	吉井 雅一	定岡 孝明
MO				

得点(G), 警告(W), 退場(2), 失格(D), 報告書付失格(DR) 特記事項に報告書として内容を記入

令和4年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会
高松宮記念杯第73回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

試合結果・戦評報告書

競技日	2022年7月30日(土)		会場	愛媛県武道館	
種別	女子		回戦	1回戦	
チーム名			チーム名		
四天王寺高等学校(大阪)			県立玉野光南高等学校(岡山)		
得点合計	小計		小計	得点合計	
30	16	前半	11	18	
	14	後半	7		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評	
<p>玉野光南高校のスローオフで始まり、玉野光南が②執行のミドルシュートで先取する。対する四天王寺高校は⑩平松や⑨向井のカットインで連続得点を叩き出すも、玉野光南が②執行と⑩山路の得点で追いつき、両者順調な滑り出しとなった。双方共に、相手の反則から得た7mTを決め合い、得点を重ね合う一進一退の時間が経過する。四天王寺の速攻による⑧多田のカットインや④田中の得点に対し、玉野光南は②執行のミドルシュートなどで応戦する。両チームともに退場者が出るも、それぞれが耐え抜き、残り5分で12対10となった。ここで、四天王寺が⑧多田、⑩平松の連続得点等で突き放し、前半を16対11で折り返した。</p> <p>後半開始、四天王寺は玉野光南の②執行にプレスDFを仕掛けるも、玉野光南は攻撃リズムを崩されず、⑩山路が後半最初の得点を入れる。四天王寺は間を割る強い攻撃で得た7mTを④坂井がものにする。両者互いの持ち味を発揮する攻防で緊張感ある展開が続く中、四天王寺は長身の⑩青木が入りDF、OFともに厚みが増し、連続得点につなげた。玉野光南も②執行を中心にDFラインを崩しポストを生かしたプレーでやり返すが、残り10分で27対15となった。最後まで両者粘り強く点を取りに行く試合展開の末、30対18で四天王寺が勝利した。</p>	